

「制作実習」－復習問題(17).doc

氏名:

クラス:

今回はディミニッシュ特集！さいごまでやっちゃおう

## ★Melody Harmonize = Sectional Writing⑥ (Shearing)

「制作実習」－復習問題(08).doc

★リハーモナイズ⑧(ノンダイアトニックコードでの代理－2: Diminished Chord その壱)

でやった Passing Diminished とは？

Diatonic Chords を繋ぐための経過策として、Root を半音進行しつつ Diminished Chord を挟んちゃうことで、それを Melody Harmonize に応用したのが Shearing ! (盲目のピアニスト Gerorge Shearing によって人気爆発した伝説より)

ふつーに Closed Voicing すると、こーゆーかんち。

4 way close voicing & オクターブユニゾン下

CM7 Dm7 G7 Galt.

内声は全部 Chord Tone~

これはこれで安定感バツグンだが、メロディが Non Chord Tone の時、内声が動かないんで、単調でギコチナかったりする。

ってわけで、  
トップノートが Non Chord Tone の時は Diminished Chord にしちゃって繋げると。。。

4 way close double read = Shearing

CM7 Dm7 G7 Galt.

Fdim Bdim Gdim Edim

こんなかんちで、

Chord Tone と Non Chord Tone が滑らかに繋がっちゃう。

なんで滑らかなのか？

ってことについては本稿の最後に。。。

## ★リハーモナイズ⑫(ノンダイアトニックコードでの代理－4: Diminished Chord その弐)

「制作実習」－復習問題(08).doc

★リハーモナイズ⑧(ノンダイアトニックコードでの代理－2: Diminished Chord その壱)

～その理屈を利用して、ROOT を半音進行しつつ、機能的に展開していく為の Diminished Chord を《パッシングディミニッシュ》と言うのだ。

この Passing Diminish が Diminish の基本。

で、

Dinimish には、もひとつ特別な使い方がある。⇒それが Tonic Diminish !

たとえば、

『ひとつのコードが長すぎて飽きそ～な時、一時的に内声を揺らせて場を繋いちゃったりする』

この補助的用法が Tonic Diminish ね。

だからこれが基本

in C: I    -    -    -    ⇒    I    -    Tonic Diminish    -

ルートに変化はなく、コードトーンの一部(2音とか)だけが、半音下降してるとこに注目。

※結果的に内声はハーモニックリッシュになる!

の応用でV7の時間が長いときにも使える。よーにも思えるっつーか使えるんやけど

in C: V    D    -    -    ⇒    V    D    Gdim7+G#dim7=Gcom. dim.    -

みてのとーり、

V dim7 ってのは、V7の代理=#V dim7のテンション ⇒ よってこの Gdim7 の正体は G#dim7

よーするに、

ルートに変化はなく、コードトーンの一部(この場合3音)だけが、半音下降してるんで、これも Tonic Diminish.

ってことで、

Diminished Chord を見つけたら、その前後関係(特に後ろ)を見て、

次のコードとルートが共通だったら⇒Tonic Diminish

で、

次のコードへのルートが半音で動いていたら⇒Passing Diminish

って解釈するのが基本。

in C: I    6    6    6    6    ⇒    I lon.    I lon.    com.dim.    I lon.

以下 Passing Diminish の場合、

II-Vへの分割を同じスケールで弾いちゃうと

Root が違うだけで、どちらも中身は同じ Diminish Scale

in C: I    6    II    S    V    D    I    ⇒    I    6    II    S    II dim7    I

この後こいつは D diminished Scale=G com. dim. Scale に変身

コードはII7だとしても Dominantの分割っつー解釈で、まとめて2小節 Vdim7=V com. dom. (正体は#Vdim7) を使っちゃう

よーするに [Ddim7] = [G#dim7] だから

こんなふーに置き換えることもできちゃう

in C: I    6    II    S    V    D    I    ⇒    I    6    II    S    II dim7    I

正体はV com. dim.=#Vdim7 よってこいつはPassing Diminish

以上。まとめると、

パッシングディミニッシュ = ドミナントのルートが半音上がった ⇒ Diminish Scale  
 トニックディミニッシュ = コードトーンの一部が半音下がった ⇒ Diminish Scale

よーするに、

TonicDim.と Sus4 とは同類。どっちも解決を遅らせる為のものだ。その違いは

Sus4 →半音下に解決

TonicDim. →半音上に解決 ってること。

## ★あっちゃこっちゃで使える Diminish Scale にて12音揃える近道

ドミナント7th コードのルートを半音上げたらディミニッシュコードになる。

よーするに、

ドミナント7th コードと、その半音上のディミニッシュコードは互いに、代理コードとして使える。

でもって、

コンディミは、Altered・Lydb7th の両方のテンションをちよろっとずつ持つてる。

んだから、

コンディミは、Altered・Lydb7th の両方の代わりに使える便利もの。

だから、

メジャーKeyでドミナント7th コードがでてきたら、なんでもかんでもコンディミでもOKなのだ。

例えば Key in C:の時、

Passing Diminish(G#dim)と Tonic Diminish(Cdim7)

をどっちも、

Diminish Scale (# V diminish scale & I com.dim. scale)で弾くと、

C Major Scale (基本中の基本)    C com.dim.    G#dim7  
 ↑ V7のavoid    ↑ I M7のavoid    I のTonic Diminish    VのPassing Diminish

トニックとドミナントだけで12音全部使えることになる！

## ★Passing Diminish から生まれた Bebop Scales、その正体とボイシング

ってわけで、

ヒジョーに滑らかな響きを持った

4way close double read = Shearing

なんだけど、

その

滑らかな理由ってのは？なんだ？なんなの？

例えば、C Major Scale(+ b VI)をトニックのワンコードで Shearing すると、こーなる。

C6    dim    C6    dim    C6    dim    C6    dim    C6

この Diminished Chord は、ドミナントである#V dim の構成音そのものだ！

ってことは

順次進行のスケールを Shearing すると、T-D-T-D-T-D〜っつー超自然なカデンツを形成してることになるのだ！

この Shearing で生まれた2つのコードをスケール化したのが Bebop Scale ！

Bebop Major Scale

CM7

Chromatic Passing Note

ね。こーして1音増えるだけで、色んな遺伝子細胞が共存してるキメラ状態になる。やはりビバッパー達は偉すぎたのだ@  
同じ理屈で、他のコードタイプにも Chromatic Passing Note を追加すると、、、

Bebop Dominant Scale

C7

Chromatic Passing Note

Bebop Dorian Scale

C-7

Chromatic Passing Note

Bebop Melodic Minor Scale

C-M7

Chromatic Passing Note

これが、Passing Diminish Chord が胚胎&御懐妊する Bebop Scale の正体だ！

で、

D-T〜の連続する4way close double read = Shearing ⇨ Bebop Scale も、2nd ノートをオクターブ下げちゃえば、

C6 G7(b9) C6 G7(b9) C6 G7(b9) C6 G7(b9) C6

C-6 dim C-6 dim C-6 dim C-6 dim C-6

こんなかんちで

他の Voicing 同様、Shearing も Drop 2 サウンドを Mechanical に抽出しちゃう。